

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年5月8日				
児童発達支援・放課後等デイサービス フェイス						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		行事等では自治会館を借りるなど、工夫しながら活動を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	10		基準よりも多く配置している。出席人数や状況に応じて職員を増員している。ボランティアや学生アルバイトも活躍している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		利用児の状況や状態の変化、活動スペースや活動内容に応じて、都度適切となるよう検討・改善を行っている。	施設内はバリアフリーではないが、手すりや間仕切り等が充実している。門や柵の打掛錠やセンサーを二重に設置するなどし、転落や飛び出しの防止に努めている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	3		壁の破損などがあったが修繕を行った。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10			保護者やこどもの意見や提案を行事や活動プログラムに採用している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		日々の振り返り、会議等で行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		10	第三者委員会などは設置していない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		面談記録が細かくあり、希望やニーズをしっかり聞き取れている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		ケース会議の際にできるだけ多くのスタッフが集まり、子どもの状態を把握しながら進めている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		支援計画は共有されているが、より日常的に意識しながら支援へ活かしていきたい。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		情報共有はできている。	昨年度末に【保育・療育支援システム HUG】を導入し、業務効率化や情報共有のICT化を進めた。一方で、活用方法や情報共有の仕組みについては、まだ改善の余地があると感じています。すべての職員が必要な情報を安心して把握し、支援に活かせるよう、運用方法の整理や共有体制の充実を進めていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10			

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		話し合いの機会をより増やしたい。	チームでサポート、共有している。イベントは子どもが中心となってプログラムを立案・推進している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		より多方面からアイデアを取り入れたい。	個人の目標や特性や希望をもとに集団のテーマを設定し、月ごと・週ごと・日々のプログラムを実践している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10			振り返りや打ち合わせの時間を増やしたことで、全職員が支援に対してより共通認識を持てるようになっている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	8	日頃から関係機関へ相談と共有は行っているが、児童発達支援センターとの継続的な連携やスーパーバイズ体制については十分ではない。	専門的助言を受けられる機会を、研修だけでなく継続的に増やしながら、支援の質向上につなげていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	9	公園や地域のイベントに出かけた際に、地域の子どもたちと交流する機会はある。	地域資源や他機関とのつながりを広げながら、交流機会を検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	3	地域の自立支援協議会や放課後等デイサービスの集まりに参加している。	特定のスタッフに偏ることなく、学びの場として多くのスタッフが参画できる体制づくりを進めていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10		地域の研修を紹介した。	家族も参加できる研修の機会があるとよい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10			

保 護 者 へ の 説 明 等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	3	参観機会を設けているが、参加者は少ない。	保護者同士の交流を図れるような工夫が必要。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	7		子どもたちの安全面やプライバシーにも配慮しながら、地域イベントや外部活動等を通して、地域に開かれた事業所づくりを検討していきたい。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		保護者向けにマニュアルを配布し周知を行った。訓練やロールプレイを適宜行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		月次会議や昼ミーティング実施の際に定期的に机上訓練や研修を行っている。児童に対しては定期的に活動の中で避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		軽度のアレルギーのため、指示書はない。家族と都度確認をしている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1		送迎時の安全確認等について、半年に一度程度、職員間で再確認する機会を設けていきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10			